

基本計画書

基本計画										
事項		記入欄						備考		
計画の区分		学部の学科の設置								
フリガナ設置者		ガッコウホウジン アザブジュウイガクエン 学校法人 麻布獣医学園								
フリガナ大学の名称		アザブダイガク 麻布大学								
大学本部の位置		神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-71								
大学の目的		麻布大学は獣医学、畜産学、動物応用科学、生命科学及び環境科学に関する専門の学術を教授研究し、その応用能力の展開をはかるとともに、人格の完成につとめ、進んで学術の進歩と人類の生活向上に寄与し、平和社会の建設に貢献することを目的とする。								
新設学部等の目的		獣医保健看護学科は、愛玩動物看護師として、動物愛護及び適正飼養など、ヒトと動物の健康と福祉、QOL（Quality of Life）の向上にかかわる分野の科学的根拠に基づいた貢献ができ、さらにヒトと動物の生命と福祉及び未来の共生社会に対して社会的使命を遂行できる能力を持つ人材を養成することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	獣医学部 獣医保健看護学科 計	年 4	人 70 70	年次人 － －	人 280 280	学士（獣医保健看護学）	年 月 第 年次 令和6年4月	神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-71		
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		獣医学部 動物応用科学科〔定員減〕（△10）（令和6年4月） 生命・環境科学部 食品生命科学科〔定員減〕（△40）（令和6年4月） 環境科学科〔定員減〕（△20）（令和6年4月）								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習		計				
	獣医学部獣医保健看護学科	56科目		10科目	12科目	78科目	124単位			
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
				教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新設	獣医学部 獣医保健看護学科 計			人 4 (4)	人 2 (2)	人 3 (3)	人 0 (0)	人 9 (9)	人 0 (0)	人 27 (13)
				4 (4)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	9 (9)	－ (－)	－ (－)
既設	獣医学部 獣医学科 動物応用科学科 基礎教育系 生命・環境科学部 臨床検査技術学科 食品生命科学科 環境科学科 国際コミュニケーション フィールドワーク 数理・データサイエンス 教職課程 生物科学総合研究所 大学教育推進機構 計			17 (21)	11 (11)	15 (16)	6 (6)	49 (54)	0 (0)	57 (58)
				6 (7)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	16 (17)	0 (0)	71 (76)
分	計			1 (2)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	5 (6)	0 (0)	0 (0)
				4 (4)	3 (5)	1 (1)	2 (2)	10 (12)	0 (0)	54 (56)
要	計			4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	52 (54)
				4 (4)	1 (2)	1 (1)	2 (2)	8 (9)	0 (0)	62 (65)
要	計			0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
				1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
要	計			0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
				1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
要	計			1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
				0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
要	計			39 (45)	28 (31)	27 (28)	10 (10)	104 (114)	－ (－)	－ (－)
				43 (49)	30 (33)	30 (31)	10 (10)	113 (123)	－ (－)	－ (－)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計					
	事 務 職 員		64 (71)		36 (38)		100 (109)					
	技 術 職 員		3 (3)		3 (9)		6 (12)					
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)		2 (1)		4 (3)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)					
	計		69 (76)		41 (48)		110 (124)					
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計		共用：麻布大学 附属高等学校 （収容定員774人。法令上の必要面積：校地15,480㎡、校舎5,418㎡）	
	校 舎 敷 地		71,925㎡		0㎡		13,901㎡		85,826㎡			
	運 動 場 用 地		1,518㎡		0㎡		18,563㎡		20,081㎡			
	小 計		73,443㎡		0㎡		32,464㎡		105,907㎡			
	そ の 他		5,641㎡		0㎡		0㎡		5,641㎡			
	合 計		79,084㎡		0㎡		32,464㎡		111,548㎡			
校 舎			専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計			
			63,435㎡ （ 63,435㎡）		0㎡ （ 0㎡）		9,468㎡ （ 9,468㎡）		72,903㎡ （ 72,903㎡）			
教室等		講義室		演習室		実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体
		44 室		22 室		30 室		3室 （補助職員0人）		- 室 （補助職員0人）		
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称				室 数					
			獣医学部獣医保健看護学科				9 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定不能なため、 大学全体の数	
	獣医保健看護学科		116,747 [24,339] (116,267 [24,299])		11,374 [6,363] (11,374 [6,363])		6,595 [5,082] (6,595 [5,082])	2,414 (2,410)	7,157 (7,157)	127 (127)		
	計		116,747 [24,339] (116,267 [24,299])		11,374 [6,363] (11,374 [6,363])		6,595 [5,082] (6,595 [5,082])	2,414 (2,410)	7,157 (7,157)	127 (127)		
図書館			面積		閲覧座席数			収 納 可 能 冊 数			大学全体	
			1,848㎡		324			159,881				
体育館			面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
			2,788㎡		大学テニスコート 1,715㎡							
経 費 積 及 持 方 法 の 概 要	の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出学科全体		
		教員1人当り研究費等		700千円	700千円	700千円	700千円	- 千円	- 千円			
		共 同 研 究 費 等		5,350千円	5,350千円	5,350千円	5,350千円	- 千円	- 千円			
		図 書 購 入 費	5,200千円	5,200千円	5,200千円	5,200千円	5,200千円	- 千円	- 千円			
		設 備 購 入 費	- 千円	41,000千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円			
		学生1人当り 納付金	第1年次 1,600千円	第2年次 1,600千円	第3年次 1,600千円	第4年次 1,600千円	第5年次 - 千円	第6年次 - 千円				
		学生納付金以外の維持方法の概要			資産運用収入、雑収入							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称 麻布大学											
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地		
	獣医学部		年	人	年次人	人		倍				
	獣医学科		6	120	-	720	学士（獣医学）	1.26	昭和25年度			
	動物応用科学科		4	130	-	520	学士（動物応用科学）	1.11	平成6年度			
	生命・環境科学部							0.94				
	臨床検査技術学科		4	80	-	320	学士（保健衛生学）	1.26	平成20年度			
	食品生命科学科		4	80	-	320	学士（保健衛生学）	0.69	平成20年度			
	環境科学科		4	80	-	320	学士（環境科学）	0.86	平成20年度			
	獣医学研究科							0.99				
	獣医学専攻（博士課程）		4	10	-	40	博士（獣医学）	0.73	昭和37年度			
	動物応用科学専攻（博士前期課程）		2	20	-	40	修士（動物応用科学）	1.43	平成5年度			
	動物応用科学専攻（博士後期課程）		3	4	-	12	博士（学術）	0.42	平成7年度			
	環境保健学研究科							1.10				
	環境保健科学専攻（博士前期課程）		2	7	-	14	修士（環境保健科学）	1.36	平成6年度			
	環境保健科学専攻（博士後期課程）		3	2	-	6	博士（学術）	0.50	平成8年度			

附属施設の概要	名称：麻布大学附置生物科学総合研究所 目的：生物科学及びその関連学術分野における総合的な研究機能を果たすとともにこれら領域の教育研究基盤の充実を図り、併せて国内外における学術交流の発展に寄与することを目的とする。 所在地：神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-71 設置年月：昭和63年4月 規模等：土地1,888.00㎡，建物3,423.22㎡	
	名称：麻布大学附属学術情報センター 目的：平成12年4月に、既存の図書館と情報処理センターを統合して発足した組織であり、学生及び教職員の教育研究に必要な図書及び学術資料並びに情報関連機器及びネットワークを総合的に管理運営することを目的とする。 所在地：神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-71 設置年月：平成12年4月 規模等：土地1,848.00㎡，建物2,278.48㎡	
	名称：麻布大学附属動物病院（家畜病院）〔獣医臨床センター〕 目的：寿命が延びた飼育動物の疾病に対応する高度な動物医療技術の研究教育とともにさまざまな動物の病気や病態からヒトの病気のモデルを探り、健康増進に役立てようとする試みにも取り組む。 所在地：神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-71 設置年月：平成11年6月 規模等：土地1,508.00㎡，建物2,206.30㎡	
	名称：麻布大学いのちの博物館 目的：創立125周年記念事業の一環として設立。本学が所有している学術的に価値のある資料や教育のための教材などの学術資材を長年保管すること、それらを広く社会に紹介することを目的とする。 所在地：神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-71 設置年月：平成27年9月 規模等：土地525.94㎡，建物764.01㎡	
	名称：麻布大学フィールドワークセンター 目的：島根県美郷町との包括協定に基づき、生命・環境科学部の野外教育拠点として学術研究、研究成果の実用化と普及啓発、教育・文化の振興等を目的とする。 所在地：島根県邑智郡美郷町粕刈161 番地 設置年月：令和3年4月 規模等：土地1470㎡，建物530㎡	

教 育 課 程 等 の 概 要															
（獣医学部獣医保健看護学科）															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎 教育 系 科 目	人文学系・社会科学 心理学	1前		2		○								兼1	
	社会学	2前		2		○			1						
	社会統計学	2後		2		○			1						
	小計（3科目）	—	0	6	0	—			1	0	0	0	0	兼1	
	自然科学系科目 化学	1前	2			○								兼1	
	生物学	1前	2			○								兼1	
	生物学実習	1前		1				○						兼1	
	ライフサイエンスの数学	1前		2		○								兼1	
	コンピュータ基礎演習	1前		1			○							兼3	共同
	地球共生論	1前	2			○			2	1				兼12	オムニバス方式・共同（一部）
	有機化学	1後	2			○								兼1	
	化学実験	1後		1				○						兼2	共同
	小計（8科目）	—	8	5	0	—			2	1	0	0	0	兼21	
	外国語科目 基礎科学英語	1前	2			○								兼1	
	獣医看護実践英語	1後	2			○								兼1	
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1	
	キャリア科目 キャリアデザイン基礎	1前	1				○		4	2	3				
	キャリアデザイン応用	3前	2			○								兼1	
	キャリアデザインフィールドスタディ	1通			1		○		1						
	小計（3科目）	—	3	0	1	—			4	2	3	0	0	兼1	
	育保 科 健 目 体 基礎体育	1通		2			○							兼6	共同
	小計（1科目）	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼6	
	データサイエンス科目 地球共生系データサイエンス演習Ⅰ	1後	1					○						兼1	
	地球共生系データサイエンス演習Ⅱ	2前		1				○						兼1	
	地球共生系データサイエンス演習Ⅲ	3前		1				○						兼1	
	地球共生系サイエンスワーク	3通		2		○								兼1	
	小計（4科目）	—	1	4	0	—			0	0	0	0	0	兼2	
専 門 共 通 系 科 目	基礎動物学 動物形態機能学Ⅰ（解剖学・組織学Ⅰ）	1前	2			○			1					兼2	オムニバス方式
	動物形態機能学Ⅱ（解剖学・組織学Ⅱ）	1後	2			○			1					兼2	オムニバス方式
	動物形態機能学Ⅲ（生理学Ⅰ）	1後	2			○			1					兼1	オムニバス方式
	動物形態機能学Ⅳ（生理学Ⅱ）	2前	2			○			1					兼1	オムニバス方式
	生命倫理・動物福祉	1前	2			○			1						
	動物行動学	1後	2			○					1				
	比較動物学Ⅰ	1後	2			○						1		兼4	オムニバス方式・共同（一部）
	比較動物学Ⅱ	2前	2			○								兼3	オムニバス方式
	動物栄養学Ⅰ	2前	2			○								兼1	
	動物栄養学Ⅱ	2後	2			○					1			兼1	オムニバス方式
	動物愛護・適正飼養関連法規	2前	1			○								兼1	
	動物看護関連法規	3前	1			○								兼1	
	動物繁殖学	2後	2			○								兼7	オムニバス方式
	小計（13科目）	—	24	0	0	—			2	0	2	0	0	兼18	
	基礎動物看護学 動物看護学概論	1前	2			○			4	2	3				オムニバス方式
	動物感染症Ⅰ（細菌・真菌）	1後	2			○				1					
	動物感染症Ⅱ（免疫学・寄生虫学・ウイルス学（総論））	2前	2			○			1					兼2	オムニバス方式
	動物感染症Ⅲ（ウイルス学（各論）、感染症学）	2後	2			○								兼3	オムニバス方式
	動物病理学	2前	2			○			1						
	動物薬理学Ⅰ	2後	2			○			1						
	動物薬理学Ⅱ	3前	2			○			1						
	公衆衛生学Ⅰ（総論・環境衛生）	3前	2			○								兼3	オムニバス方式
	公衆衛生学Ⅱ（食品衛生）	3前	2			○				1				兼2	オムニバス方式
	小計（9科目）	—	18	0	0	—			4	2	3	0	0	兼7	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(獣医学部獣医保健看護学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門共通系科目	臨床動物看護学 I	2前	2			○					3					オムニバス方式
	臨床動物看護学 II	2後	2			○				2				兼4	オムニバス方式	
	臨床動物看護学 III	3前	2			○				1	1			兼7	オムニバス方式	
	動物外科看護学 I	2後	2			○				1	1			兼6	オムニバス方式	
	動物外科看護学 II	3前	2			○				1	2			兼2	オムニバス方式	
	動物臨床検査学	2前	2			○			1	1				兼3	オムニバス方式、共同（一部）	
	動物臨床看護学総論	2後	2			○					2			兼1	オムニバス方式	
	動物医療コミュニケーション	3後	2			○								兼3	オムニバス方式	
	動物臨床看護学各論 I	3後	2			○				1				兼6	オムニバス方式	
	動物臨床看護学各論 II	3後	2			○								兼6	オムニバス方式、共同（一部）	
	動物臨床看護学各論 III	3後	2			○				1	3			兼4	オムニバス方式	
	動物臨床看護学各論 IV	3後	2			○					1			兼8	オムニバス方式	
	小計（12科目）	—	24	0	0	—			1	2	3	0	0	兼29		
	愛護・適正飼養学	1前	2			○								兼3	オムニバス方式	
	愛玩動物学 II	1前	2			○						1		兼3	オムニバス方式	
	人と動物の関係学	1前	2			○			1		1			兼2	オムニバス方式	
	適正飼養指導論 I	2後	2			○			1							
	適正飼養指導論 II	2後	2			○			1							
	動物生活環境学	3前	2			○			1							
	ペット関連産業概論	3後	2			○			1							
	小計（7科目）	—	14	0	0	—			2	0	1	0	0	兼7		
	実験・実習科目	動物形態機能学・臨床検査学実習 I	1後	1					○	1	1				兼2	オムニバス方式
	動物形態機能学・臨床検査学実習 II	2前	1						○	1	1			兼3	オムニバス方式、共同（一部）	
	動物愛護・適正飼養学実習	2後	2						○	1						
	臨床看護学実習 I	3前	1						○			3		兼5	オムニバス方式、共同（一部）	
	臨床看護学実習 II	3前	1						○			3		兼2	オムニバス方式	
	臨床看護学実習 III	3前	1						○		1	3		兼5	オムニバス方式	
	臨床看護学実習 IV	3後	1						○		1	1		兼4	オムニバス方式、共同（一部）	
	臨床看護学実習 V	3後	1						○		1	1		兼3	オムニバス方式、共同（一部）	
	臨床看護学実習 VI	3後	1						○		1	3		兼1	オムニバス方式	
	動物看護総合実習	4通	4						○	4	2	3		兼3	オムニバス方式、共同（一部）	
	小計（10科目）	—	14	0	0	—			4	2	3	0	0	兼21		
	探求・研究科目	専門ゼミ I	3通	2					○	4	2	3				共同
専門ゼミ II	4前		2					○	4	2	3				共同	
卒業論文	4通		4					○	4	2	3				共同	
小計（3科目）	—	2	6	0	—			—	4	2	3	0	0			
選択科目	疫学概論	4前		2		○								兼2	オムニバス方式	
衛生行政学	4後		2			○								兼1		
総合動物看護学	4通		4			○			4	2	3				共同	
小計（3科目）	—	0	8	0	—			—	4	2	3	0	0	兼3		
合計（78科目）		—	112	31	1	—			4	2	3	0	0	兼84		
学位又は称号		学士（獣医保健看護学）		学位又は学科の分野				農学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
以下のとおり合計で124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:50単位/年(1年次)、47単位/年(2年次以降))								1 学年の学期区分				2 期				
								1 学期の授業期間				14 週				
								1 時限の授業時間				50 分				
☐ 基礎教育系科目で、必修科目16単位を修得する。 ☐ 専門共通系科目で、必修科目96単位を修得する。 ☐ 基礎教育系科目及び専門共通系科目で、選択科目から12単位以上（ただし探求・研究科目から2単位以上）を修得する。																

授 業 科 目 の 概 要			
（獣医学部獣医保健看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 教育 系 科 目	心理学	人間を心理学の視点から理解し基礎知識、論理的思考力を身につけ、その過程の中で人間の多様性を理解し、カウンセリングの専門知識の基礎として応用への礎となることを目指す。具体的には知覚心理学、認知心理学、学習心理学、発達心理学、人格心理学、社会心理学を取りあげる。加えて行動主義心理学における動物行動学に触れ、愛玩動物看護師としての基礎的な知識を身につけることができる。	
	社会学	社会学的な視点の構築を目指して、社会学の基礎諸理論について説明を行う。個別の社会学者の理論を体系的に学ぶというよりも、現代をとらえる視点としての社会学を中心として展開する。社会学の基本文献や基礎理論について理解することができる。その後各論として、家族、地域、教育、組織、自我、情報、災害、医療などについて学習した理解に基づいて、各種の社会問題を社会学的な視点から説明することができる。正しい意味での批判的な視野を持つことができる。	
	社会統計学	「社会統計学」は、社会の動向や個人の意識を探る方法として社会調査について学ぶ。動物とヒトとの関係を考えることは、ヒトとヒトの関係について学ぶ必要がある。このことの一方法として社会調査の方法と知見をとりあげる。現代の社会は多様な価値観をもつ人々が地域に暮らし、場合によっては対立がありうる。生命の尊厳を守り社会の中で生じる多様な課題を解決するために必要な知識や技能として社会調査を理解し、利用できることを目標とする。統計的分析の基礎として、代表値、無作為抽出法を学ぶ。調査結果の分析の方法としてデータベース作成、グラフ作成などについても言及する。	
	化学	獣医学及び動物科学を正しく理解するためには、化学の基礎的な知識や化学的な視点をもつことが必要となる。この講義では、化学物質の最小単位である原子からスタートし、化学結合や化学反応（中和反応、酸化還元反応）の仕組みを学ぶとともに、有機化学の基礎的な素養を身に付けることを目的とする。	
	生物学	獣医学部は動物を中心にした生物学の素養を発展させた応用学問を修学する学部であるので、生物学は今後の専門教科の全ての基礎となる。本講義では細胞を構成する分子群、細胞間の情報交換、細胞が構成する組織、組織が構成する器官、臓器そしてそれらを連携する器官系について基礎から学習する。	
	生物学実習	生物学実習ではニワトリやウズラを取扱う。生物学実習は、脊椎動物の生体を用いた動物実験、微生物を対象とする実験、遺伝を対象とする実験の3分野から構成されており、これら3分野領域に関係する一般概念や基礎実験及び技術を教育する。動物と微生物を材料とした実験・観察を通じて、生物に関する科学的な事象の捉え方及び結果の記録と分析方法を習得する。また、実験動物に触れることで、研究に供する動物に対する愛護・福祉への精神的及び各自の倫理観並びに生命観を醸成する。	
自然 科学 系 科 目	ライフサイエンスの数学	科学技術の発展と社会の複雑化に伴い、数学の有用性が年々高まっている。本科目は、自然界や社会に潜む数理的現象を題材に取り、それらを通して数学の基礎知識を学ぶ場を提供する。論理パラドックスや無限などの数学特有の哲学的話題から、ものの形や計算理論などの実用性に富む話題まで分野にとらわれず幅広い内容を網羅する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（獣医学部獣医保健看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 教育 系 科 目	コンピュータ基礎演習	今日、勉学・仕事・日常生活において我々は好むと好まざるとに関わらず、コンピュータと付き合わざるを得ない。大学においても学習や研究の中で情報の収集・解析・整理・発信のための大事な道具の一つとなっている。本演習では、大学でコンピュータを活用していく上で必要な知識や技術を学生自身がパソコンを操作していく中で身につける。主にドキュメント作成やプレゼンテーション用のスライド作成、また数値データの処理ができるようにMS Officeを用いて各操作を習得する。	共同
	地球共生論	我々は科学技術の発展に伴う開発を進め、地球規模の環境変化を生み出し続けている。その地球環境は人を含む生物群集を今ある生態系の上で、どこまで支え、共生していくことができるのか？ この共生を成立させるために、本学で学ぶ学問領域はどのように貢献できるのか？ 「地球共生系」という共通のキーワードのもと、これらの関係について学ぶ。 （オムニバス方式／14回） （13 川上泰・17 伊藤潤哉／1回） （共同） 麻布大学の成り立ち、大学や学部学科の歴史、教育研究理念である「地球共生系～人と動物と環境の共生をめざして～」について概要を学ぶ。 （52 松井久実／1回） 「地球共生」についての考えを相互インタビューなどグループワークを行いイメージを共有する。 （33 関本征史／1回） 暮らしとさまざまな環境問題とヒトと動物の共生への影響について理解する。 （18 落合秀治／1回） エネルギー問題と原子力発電について、放射線利用のメリットと放射線障害、環境汚染の危険性について学習する。 （1 植竹勝治／1回） 生命倫理の一領域である動物福祉上の今日的課題について学び、考える。 （15 石原淳子／1回） 人の健康と食の情報の関わりに関する情報を、科学的根拠に基づく医療の視点から見極め、疾病負荷のリスク要因としての食について学び、地球共生との関わりについて考える。 （34 松井清彦／1回） 微生物を介して、ヒトや動物あるいは環境がどのような影響を受けているかを学び人獣共通感染症の理解を深める。 （16 田原口智士／1回） 感染症の発生理由、流行、感染対策について、ヒトや動物の関係をとおして学ぶ。 （5 大仲賢二／1回） 食中毒事件を通して、「細菌」・「食品」・「ヒト」を取り巻く食品衛生上の問題点を理解する。 （3 大倉健宏／1回） 工業や農業などの産業による環境あるいは食品の汚染と人の健康被害について学ぶ。 （14 菊水健史／1回） ヒトとコンパニオンアニマルとの長きにわたる共生を踏まえ、その互恵的関係の推移を理解し、今後の共生に関しての洞察を深める。	オムニバス方式、 共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（獣医学部獣医保健看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 教育 系 科 目	自然 科学 系 科 目	（19 江口祐輔／1回） 野生動物が人の生活環境に近づき、農業被害、生活被害、CSF や鳥インフルエンザなどの感染症の問題が発生している中、人と野生動物の共存において、人は動物をどのように理解することが必要なのかを考える。 （36 福井智紀／1回） 地球共生系とこれからの科学技術、地球共生系をめざすに当たって科学技術に期待される役割や課題を考える。 （35 村山史世／1回） 経済・社会・環境が相互に関連した複雑な課題を把握し課題解決を構想するツールであるSDGsを活用して地球共生系を問い直す。	
	有機化学	有機化合物は、炭素を骨格とする化合物のほとんどを指し、微生物から植物、動物、ヒトに至るすべての生命体の構成成分であると同時に、生体内の様々な化学反応の担い手である。また、生体を調節する機能性成分、医薬品等の化学的性質や作用を知るうえで、有機化学の知識は礎である。これらの有機化合物に関する知識と理解を深めるため、本授業では高校から大学初級レベルの有機化学の内容を扱うとともに、立体化学にも焦点をあて、酵素等による生体反応の理解に繋げたい。	
	化学実験	化学の新しい反応や法則は、ほとんどが実験により発見され解明された。実験方法を学ぶことは、すでに知られている事柄について確認し理解を深めるだけでなく、広く実験系学問領域の技法を身につけることになる。化学実験の内容は、生命科学に関連するものを中心となっており、実験を通して基本的な操作及び器具、機器の取り扱い、データの解析方法などを修得する。	
	外国 語 科 目	基礎科学英語	哺乳動物の基礎的な構造：骨格、筋肉、毛、皮膚、脳神経、循環器系、消化器系、血液リンパ、内分泌、生殖系に関する語彙を習得する。またそれぞれの諸器官の役割—大脳 小脳 脳幹 心臓 肺 胃 肝臓 腎臓 胆嚢 膵臓 十二指腸 小腸 回腸 血球 リンパ器官 雌雄生殖器等—などについて英語で理解し説明できるようにする。 哺乳動物の特性である、体毛を通じて保温体温維持をすること、肉食動物 草食動物 雑食性の動物により口腔内の構造の違い、栄養摂取の違い、また体内水分調節などを英語で確認する。最大の特性の一つである胎盤内での胎児発達・出産・授乳について英語の資料を通じて確認する。小動物・イヌ ネコを中心に病原となるウィルス 細菌 寄生虫について英語の資料を確認する。イヌ ネコ エキゾチックアニマルと人間との関係について、家畜化の歴史も含め英語で資料を確認する。動物飼育に関する動物福祉の概念について、資料を通じて英語で確認する。
		獣医看護実践英語	病院内での実際の飼い主と動物との接触を想定した英語表現を学習する。「体温体重を測定します」「採血します、しっかり支えているので大丈夫です」「糞便検査をします、寄生虫卵を確認します」「これからマダニを除去します」「顕鏡検査の結果予想のとおりヒゼンダニによる疥癬です」「症状はそれほど重篤でないので安心ください」「麻酔をかけて手術をします」「今回は歯石除去をし、口腔内の衛生を保ちます」「去勢は必要です」「もう一度患部消毒後、薬剤塗布して固定・包帯を巻きます」などの各種実践的英語表現を学ぶ。小動物（含エキゾチックアニマル）、あるいは産業動物に関する各種疾病（virus, bacteria, parasites）の病原・症状徴候・処置治療・予防予後に関する英語文献を読みこれを理解する。実践的表現に必要な各種表現—重要である 必要とする 効果がある 適切である 危険な有害な 安全である 憂慮すべき 緊急に処置する 取り扱う 薬剤を投与する—などヴァリエーションのある表現の形を、特に述部となる動詞・形容詞語句と節内の表現を中心に学習する。

授 業 科 目 の 概 要			
（獣医学部獣医保健看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 教育 系 科目	キャリアデザイン基礎	初年次教育として、新1年生を対象に、獣医保健看護学科の理念と目的、カリキュラムや履修について基本的な事項を説明する。学科教員及び学生間の交流を持つことで、大学生活の不安を取り除くとともに大学生に必要なレポート作成力を身につける。 大学での学習方法や社会人として必要とされる力について演習方式で学ぶ。具体的には、①レポート・論文の書き方などの文章作法、②ノートの取り方、③プレゼンテーションやディスカッション、ディベートなど口頭発表技術、④論理的思考や問題発見・解決能力、⑤時間管理・学修習慣等を身につける。 また、1年次に固有のガイダンスや初年次教育のためのグループワークを実施する。	
	キャリアデザイン応用	経営学の概念や基礎的理論、企業経営の歴史的考察や仕組み、社会や環境との関係について学び、企業が持つ機能と役割を理解する。講義で学んだことを活用し、医療経営ビジネスプランを作成・発表する。本講義は、企業勤務及び経営経験を持つ実務家教員が企業の実例も用いて行う。現代社会を生きる上で、企業との関わりは日々の生活を通じて多岐にわたっている。企業の成り立ちや仕組みを学び、企業が持つ機能と役割及び社会や環境との関わりを理解し、組織や社会のあり方について考える機会を持つことを目標とする。	
	キャリアデザインフィールドスタディ	この科目はフィールドワークとして実施される海外研修旅行に参加した学生に単位を認定する。個人が行った海外研修を含むものではない。この研修旅行では日常の生活世界を相対化し、異文化において自前の認識枠組みを構築するために行う。同時に愛玩動物看護専門職を目指す学生にとって「ヒトと動物」の関係を異文化のもとで触知的に学ぶ機会を提供する。単位取得のためには事前の学習に参加し、参加者各自の研修目的を提出し、帰国後は報告会への参加と発表、レポート提出を求める。加えて、国内において活動時間や受け入れ団体による指導の有無など、一定の条件を満たす「ヒトと動物」についてのインターンシップ参加についても、単位を認定する。	
	基礎体育	大学生活を送る中での「健康」や「安全」について学ぶだけでなく、生涯にわたってのQuality of Life（生活の質）の向上につながる知識や技術を学ぶ。さらに、実技科目では、楽しく運動するとともに、主体的・能動的に集団活動におけるコミュニケーション力の向上やリーダーシップ性、フォロアシップ性などについて体験を通して身につける。	共同
	保健体育科目		

授 業 科 目 の 概 要			
（獣医学部獣医保健看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 教育 系 科 目	地球共生系データサイエンス演習Ⅰ	この授業では、近年の社会においてあらゆる場面で重要となっているデータサイエンスについて学んでいく。講義期間の前半では、データの読み方や扱い方の基礎として、表計算を用いた統計処理の方法について学ぶ。学習項目としては、(1) 統計諸量（代表値、標準偏差、相関係数など）の求め方、(2) 統計処理結果の表示方法、などを学習する。講義期間の後半では、データサイエンスの基礎について学ぶ。学習項目としては、(1) データサイエンスとは何か、(2) データサイエンスの利活用例、(3) データの取扱い方と取り扱う際の留意事項、などを学習する。本科目を通じて、「データを読む、説明する、扱う」というデータサイエンススキルの基礎を身につけることを目指す。	
	地球共生系データサイエンス演習Ⅱ	現代の高度情報化社会では、データに基づいて適切な判断をし、データから価値を生み出すことができる人材が求められる。この授業では、データサイエンス・AIが現代の実社会の変化に深く寄与していることを学んだ上で、データサイエンスの基本的な活用法を修得する。本科目を通じて、地球共生系データサイエンス演習Ⅰで学んだ「データを読む、説明する、扱う」といったデータサイエンススキルを向上させることを目指す。	
	地球共生系データサイエンス演習Ⅲ	データから様々な価値を引き出すデータサイエンスは、現代社会のいたるところで活用されており、社会で活躍する人が身につけるべき教養の一つである。データサイエンスで頻繁に使用されている統計解析プログラムと、実データ、実課題を用いて、データサイエンスで必要とされる「データを読む、説明する、扱う」スキルとプレゼンテーションスキルを学ぶ。本科目では、地球共生系データサイエンス演習Ⅱで学んだデータサイエンススキルをさらに向上させるために、より発展的な学習を行う。	
	地球共生系サイエンスワーク	本学が平成28年度に選定を受けた私立大学研究ブランディング事業「動物共生科学の創生によるヒト健康社会の実現」に関わる研究アプローチや、その成果を担当教員の講義により紹介する。さらに、これをもとに各学科の学生グループが論文調査を行い、その概要を発表する。さらに、講義、論文調査・発表をベースとして、グループワークにより自らの研究プログラムへの応用を考え、発表する。これらを通じて、本学で行われている地球共生に対する取り組みを理解し、自らの(卒業)研究を進めるヒント・気づきを得る。	

授 業 科 目 の 概 要			
（獣医学部獣医保健看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 共通 系 科目	基礎 動物 学 科 目	動物形態機能学Ⅰ （解剖学・組織学Ⅰ）	オムニバス方式
		（概要）動物の生命維持の仕組みを形態学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的变化について学ぶ基盤を確立する。「動物形態機能学Ⅰ」では、最初に生物の基本単位である「細胞」の構造を理解し、「運動器」、「消化器」、「循環器」、「呼吸器」について学習する。 （オムニバス方式／全14回） （4 島津徳人／6回） 細胞の構造・生物の階層構造、消化器系（消化管・唾液腺・肝臓・膵臓）、呼吸器系（上気道・下気道・肺）について概説する。 （30 市原伸恒／4回） 運動器系（骨格系・筋系・関節）について概説する。 （51 大石元治／4回） 循環器系（心臓・心筋・血管）について概説する。	
		動物形態機能学Ⅱ （解剖・組織学Ⅱ）	オムニバス方式
		（概要）動物の生命維持の仕組みを形態学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的变化について学ぶ基盤を確立する。「動物形態機能学Ⅱ」では、「泌尿器」、「内分泌器」、「神経」、「感覚器」、「血液」について学習する。 （オムニバス方式／全14回） （4 島津徳人／6回） 泌尿器系（腎臓・糸球体・ボーマン嚢・尿細管・膀胱）、内分泌系（内分泌臓器）、血液（赤血球・白血球・血小板）について概説する。 （30 市原伸恒／4回） 神経系（中枢神経・末梢神経・体性神経・自律神経）について概説する。 （51 大石元治／4回） 感覚器系（皮膚・感覚器系器官）について概説する。	
		動物形態機能学Ⅲ （生理学Ⅰ）	オムニバス方式
		（概要）動物の生命維持の仕組みを機能学（生理学や生化学）の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的变化について学ぶ基盤を確立する。「動物形態機能学Ⅲ」では、最初に生物の基本単位である「細胞」のはたらきを理解し、「運動器」、「消化器」、「循環器」、「呼吸器」について学習する。 （オムニバス方式／全14回） （52 松井久実／10回） 運動器系（骨・関節・骨代謝・骨格筋・筋収縮）、消化器系（消化管・唾液腺・肝臓・膵臓）、循環器系（心臓・心筋・血管・興奮伝導系・心電図・心音・血管・血圧）、呼吸器系（上気道・下気道・換気・ガス交換・ガス運搬・呼吸運動）について概説する。 （4 島津徳人／4回） 細胞のはたらき・DNAのはたらき・器官の成り立ち／維持／調整について概説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（獣医学部獣医保健看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 共通 系 科目	基礎 動物 学 科目	動物形態機能学Ⅳ （生理学Ⅱ）	オムニバス方式
		（概要）動物の生命維持の仕組みを機能学（生理学や生化学）の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。「動物形態機能学Ⅳ」では、「泌尿器」、「内分泌器」、「神経」、「感覚器」、「血液」について学習する。 （オムニバス方式／全14回） （52 松井久実／10回） 内分泌系（ホルモン・内分泌器官・標的器官）、神経系（ニューロン・活動電位・シナプス伝達・体性神経・自律神経）、感覚器系（皮膚、皮膚付属器・体性感覚・特殊感覚）、血液（赤血球・白血球・血小板・血漿・血液凝固・線維素溶解）について概説する。 （4 島津徳人／4回） 泌尿器系（腎臓・クリアランス・糸球体濾過・尿細管再吸収・体液区分・電解質バランス・酸塩基平衡）について概説する。	
		生命倫理・動物福祉	
		動物行動学	

授 業 科 目 の 概 要			
（獣医学部獣医保健看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 共通 系 科目	基礎 動物 学 科 目	比較動物学Ⅰ （概要）飼養動物や野生動物の概要を理解するために、比較動物学Ⅰでは産業動物及び実験動物の歴史や品種、飼養管理法について学ぶ。 （オムニバス方式／全14回） （39 田中和明／5回） 動物愛護管理法に基づく飼養動物の分類について：愛玩動物、産業動物、実験動物、展示動物等の飼養動物と野生動物を比較しながら、その歴史、社会的位置づけ及び特徴について理解する。飼養動物の歴史と野生動物の家畜化について理解する。産業動物の品種と歴史1：ウシとブタの飼養目的と主要な品種について理解する。産業動物の品種と歴史2：ウマ、ロバ、ヒツジ及びヤギの飼養目的と主要な品種について理解する。産業動物の品種と歴史4：ニワトリ・ウズラ・アヒル・ガチョウ・ダチョウ （62 風間啓／5回） 産業動物を中心に各家畜の消化器の形態と機能を理解する。産業動物の繁殖生理：主な家畜の繁殖と性周期を理解する。産業動物の飼養施設について理解する。各家畜の食性と飼養法について理解する。産業動物の飼養管理と留意するべき疾病について理解する。 （20 中村紳一朗・40 塚本篤士／4回）（共同） 動物実験の目的と意義及び動物実験における生命倫理を3R5F中心に理解する。疾患モデル動物を含め主要な実験動物の特徴を理解する。実験動物の飼育繁殖と管理：遺伝的制御、微生物学的制御、環境制御について理解する。動物実験の基本技術と動物実験代替法について理解する。	オムニバス方式、 共同（一部）
		比較動物学Ⅱ （概要）飼養動物や野生動物の概要を理解するために、比較動物学Ⅱでは野生動物の種類と分類、野生動物の保全及び動物園などで飼育されている展示動物の管理について学ぶ。 （オムニバス方式／全14回） （39 田中和明／3回） 生物の分類体系と命名方法について理解する。生物多様性とその保全の重要性について理解する。生物の進化と遺伝的多様性について理解する。 （21 塚田英晴／4回） 世界の生物多様性の概観について生物地理区と主要な分布境界線について理解する。日本の自然環境の特性と生物多様性を理解する、世界における絶滅危惧種とその保全方法を理解する。日本国内における絶滅のおそれのある野生生物種について理解する。 （53 加瀬ちひろ／7回） 日本における鳥獣害の現状と対策について理解する。外来生物の定義、在来生態系に及ぼす影響、対策について理解する。動物園・水族館の歴史と意義について理解する。展示動物の飼養及び保管に関する基準と、適正施設ガイドラインを理解する。動物園施設で飼育されている主要な展示動物の個体・群管理、行動管理をなどの飼育管理について具体例に基づいて理解する。動物園等での環境エンリッチメントと多様な展示方法を理解する。動物園での希少動物の繁殖の取組みについて理解する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（獣医学部獣医保健看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 共通 系 科目	基礎 動物 学 科 目	動物栄養学Ⅰ 5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、栄養要求の動物種差やライフステージによる違いなどを学ぶことで、動物の生命維持に必要な栄養全般について理解する。 5大栄養素（糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル）、栄養要求の種差（必須アミノ酸、必須脂肪酸など）、栄養素の欠乏症・過剰症といった健康維持における栄養の持つ意味について解説する。続いて、食性・嗜好性・摂食行動、エネルギー要求量（RER、MERなど）の意味と計算法、栄養基準（AAFCO、NRCなど）、ライフステージ（成長期、維持期、妊娠期、授乳期、高齢期）ごとの栄養管理といった動物側の栄養要求に関する事柄を解説する。	
		動物栄養学Ⅱ （概要）動物栄養学Ⅰで修得した基礎的な栄養学を踏まえた上で、疾患時の食事療法（意義や各種療法食の特色など）や給餌方法などを学び、愛玩動物看護師に必要なより実践的な栄養学を修得する。 （オムニバス方式／全14回） （41 鈴木武人／10回） ペットフードの種類・分類、ペットフードのラベル表示、与えてはいけないものやそれらに由来する中毒、栄養状態の評価法（BCS、体脂肪測定など）、肥満の弊害と減量プログラムの作成法など、フードと栄養指導について解説する。また、さまざまな疾患時の食事療法や療法食の特徴や効果など疾患と栄養についても解説する。 （9 小野沢栄里／4回） 強制給餌の方法と注意点、経管栄養法の種類（経鼻、食道、胃瘻チューブなど）と特徴・方法、静脈栄養法の種類（TPN、PPN）と特徴・方法、チューブやカテーテルの設置手順と管理上の注意点について解説する。	オムニバス方式
	動物愛護・適正飼養関連法規	動物の愛護及び適正飼養に関連する法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する。まず、基本となる概念：愛護・適正飼養に関連する法規と愛玩動物看護師の関わりを修学し、それに関連する身体障害者補助犬法の概要を学ぶ。また、それに合わせて廃棄物の処理及び清掃に関する法律の概要、化製場等に関する法律の概要や生物多様性の概要、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律の概要、絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約の概要、並びに文化財保護法における飼育動物や野生生物の保護に関する制度を理解し、ヒトと動物の共生にかかわる法規等について学ぶ。	
	動物看護関連法規	動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。まず、法体系、獣医療に関連する法規と愛玩動物看護師の関わりを学習し、愛玩動物看護師法の目的と定義を身につける。また獣医師法の概要と獣医療法の概要、公衆衛生行政法規、狂犬病予防法の概要、薬事行政法規に関する法律の概要について理解し、習得する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(獣医学部獣医保健看護学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 共 通 系 科 目	基 礎 動 物 学 科 目	動物繁殖学	(概要)繁殖に関わる形態と機能を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する。 (オムニバス方式／全14回) (44 野口倫子／4回) 主要な動物の生殖器(雌・雄)の基本構造、愛玩動物及び産業動物の性成熟から分娩に至る繁殖生理について解説する。また、動物繁殖学における最新の知見についても解説する。 (26 吉岡耕治／2回) 愛玩動物の生殖補助技術について解説する。また、動物繁殖学における最新の知見についても解説する。 (17 伊藤潤哉／2回) 生殖形成から胚発生に至るまでの過程について解説する。また、動物繁殖学における最新の知見についても解説する。 (58 寺川純平／2回) 雌雄の生殖機能調節に関する内分泌について解説する。また、動物繁殖学における最新の知見についても解説する。 (31 戸張靖子／1回) 愛玩鳥類の繁殖生理について解説する。 (55 五十嵐寛高／2回) 愛玩動物の妊娠期管理、分娩管理及び新生子管理について解説する。また、愛玩動物の遺伝性疾患及び繁殖障害について解説する。 (57 金井詠一／1回) 愛玩動物の繁殖に関わる外科的処置の手法とケアについて解説する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（獣医学部獣医保健看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 共通 系 科目	基礎 動物 看護 学科 目	動物看護学概論 「動物看護とは何か」について、動物看護の歴史や動物看護師の具体的な役割、愛玩動物看護師の倫理を通して理解する。これにより専門職としての社会的責務を知るとともに、看護学科目習得のための基盤とする。 （オムニバス方式／全14回） （9 小野沢栄里／3回） 動物看護の対象と目的について説明する。また、動物にとっての健康・福祉・QOLについて説明する。 （6 今井彩子／2回） 獣医療及び動物看護の歴史について説明する。 （7 一戸登夢／2回） 愛玩動物看護者の倫理綱領及び獣医療倫理について説明する。 （8 久世明香／2回） 動物病院の役割と病院施設による違い及び連携について説明する。 （2 栗林尚志／1回） インフォームド及びセカンドオピニオンについて説明する。 （4 島津徳人／1回） 職場における労働安全衛生について説明する。 （5 大仲賢二／1回） 職場におけるリスクアセスメントについて説明する。 （1 植竹勝治／1回） 愛玩動物看護師の資格制度について説明する。 （3 大倉健宏／1回） 諸外国における動物看護師について説明する。	オムニバス方式
	動物感染症学Ⅰ（細菌・真菌）	細菌、リケッチア、クラミジア、マイコプラズマ、真菌の病原体ごとの一般的な性状、形態、培養・増殖様式、生理・理化学的性状、分布と伝播様式等を講義する。さらに獣医学及び獣医臨床で重要な細菌及び真菌の各分類群、主に科または属レベル単位について病原体の一般性状、形態的性状、培養・増殖性状、生理・理化学的性状、抗原・血清学的性状、分布と伝播様式、病原体が引き起こす疾病に関する基本的知識を理解する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（獣医学部獣医保健看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 共通 系科目	基礎 動物 看護 学科 科目	動物感染症学Ⅱ（免疫学、寄生虫学、ウイルス学（総論）） （概要）免疫学では、免疫の基本的な仕組みである、「自己」と「非自己（病原体や異物など）」を認識し、非自己を排除する生体防御システムについて理解する。さらに、生体防御システムが生体の恒常性維持のみならず様々な疾患の病態に関係していることも理解する。寄生虫学では、獣医臨床及び公衆衛生上重要な寄生虫の分類、形態、生活環、病原性、疫学、診断、治療、予防及び宿主の防御機構について学び、寄生虫による病害発生の機序やその対策についての考え方を理解する。ウイルス学ではウイルスの分類、増殖様式、生理・理化学的性状、伝播様式や発病のメカニズムについて理解する。 （オムニバス方式／全14回） （2 栗林尚志／5回） 免疫学について概説する。 （22 平健介／7回） 寄生虫学について概説する。 （16 田原口智士／2回） ウイルス学総論について概説する。	オムニバス方式
	動物感染症学Ⅲ（ウイルス学（各論）、感染症学）	（概要）ウイルスの分類とその一般性状、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法について理解する。感染症は動物が感受性を示す病原体に感染経路を経てはじめて成立し、病原体が感染した動物で増殖して何らかの反応が起こった状態を感染という。感染症の成立要件、感染症の予防と治療、感染症の制御・制圧、微生物検査及び衛生対策を学び、各種動物の感染症を理解する。 （オムニバス方式／全14回） （16 田原口智士／7回） ウイルス学（各論）について概説する （23① 長井誠／7回）（23② 村上裕信／7回） 感染症学について概説する	オムニバス方式 令和8年度まで長井誠が担当し、令和9年度以降は村上裕信が担当する。
	動物病理学	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。動物病理学の基礎（病理解剖と病理組織検査の目的と意義・病理組織標本の作製法・病理組織学的検査の実施手順）、細胞や組織に生じる変化（変性と物質沈着・壊死とアポトーシス・細胞増殖のメカニズム・再生と化生・過形成と肥大・低形成と萎縮）、循環障害（充血とうっ血・出血の原因と病態・血栓の成因・虚血と梗塞・浮腫と水腫・ショックの原因／分類／病態・播種性血管内凝固（DIC）の病態）、炎症（炎症の定義と5大主徴・炎症の分類／原因／特徴・炎症に関与する細胞と化学伝達物質に・炎症の経過と治癒）、腫瘍（腫瘍の定義と分類・腫瘍の原因と発生機序に・腫瘍と宿主の関係・腫瘍の転移と進行）、先天異常（遺伝子・染色体異常・発生異常と奇形）について概説する。	
	動物薬理学Ⅰ	病気を治療する手段のひとつである薬物療法を行う上で必要である薬物の作用機序、体内動態及び生体に対する有害反応について理解するため、薬理学の役割、薬理作用、薬の物理化学的性質と生体膜透過機構、用量反応関係、薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬物動態パラメータ、投与方法と剤型、薬物相互作用、有害事象と副作用、若齢及び高齢動物における薬物動態、肝機能、腎機能低下時の投与設計、愛玩動物看護師による薬物の取扱い、投薬量の計算、薬物の適切な管理方法、配合変化、処方せん、動物薬事制度の概要、動物薬の開発について学ぶ。	

授業科目の概要				
(獣医学部獣医保健看護学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門共通系科目	基礎動物看護学科目	動物薬理学Ⅱ	動物薬理学Ⅰにおいて薬理学の基礎を学んだ上で獣医療において使用される代表的な薬物の作用機序、体内動態及び副作用を理解するため、循環器・泌尿器に作用する薬物、消化器に作用する薬物、オートコイド、代謝・内分泌系の薬物、血液系に作用する薬物、免疫系に作用する薬物、感染症の治療、予防に用いられる薬物、悪性腫瘍の治療に用いられる薬物、神経系に作用する薬物、呼吸器系に作用する薬物、ビタミン製剤、輸液・栄養製剤について学ぶ。	
		公衆衛生学Ⅰ（総論・環境衛生）	（概要）公衆衛生とは、集団としての人間について健康の維持・増進をはかる科学・技術である。本授業では、まず、公衆衛生の基本と健康についての考え方を総論として学ぶ。その上で、公衆衛生学に含まれる環境衛生分野について重要な概念と各論を学ぶ。各論項目は、化学物質、放射性物質、衛生動物、水、大気、土壤汚染、悪臭などとし、健康影響及び環境汚染の事例・原因・対策について理解するとともに環境基準や関係法規等について学ぶ。 （オムニバス方式／全14回） （22 平健介／1回） 衛生動物について概説する。 （45 吉岡亘／5回） 公衆衛生学総論、疫学、廃棄物について概説する。 （59 杉田和俊／8回） 大気、水、食品、環境の衛生について概説する。	オムニバス方式
		公衆衛生学Ⅱ（食品衛生）	（概要）食品衛生法、食品安全基本法に基づく、食品衛生の概要について理解し、食品の安全を確保するために、安全を脅かす（生物的、化学的、物理的）要因とその作用機序を学び、どのように安全を確保するかを理解するための基礎知識を理解する。また、乳・乳製品・卵、食肉・食鳥肉、魚介類ごとの製造から食卓に至るまでの衛生管理方法を学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。 （オムニバス方式／全14回） （60 岡谷友三／10回） 食品衛生法、食品安全基本法に基づく、食品衛生の概要について理解した後、物理学的危害（異物等）、化学的危険（自然毒・農薬等有害残留物質の残留等）を概説する。 （5 大仲賢二／3回） 生物学的危害（細菌性食中毒、ウイルス性食中毒）を概説する。さらに、国際的に普及しているHACCPについて理解する。 （22 平健介／1回） 生物学的危害（寄生虫性食中毒）について概説する。	オムニバス方式

授業科目の概要				
(獣医学部獣医保健看護学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 共通 系科目	臨床 動物 看護 学 科 目	動物内科看護学Ⅰ	(概要) 獣医療全般に関わる動物看護師の役割を知り、適切な獣医療や看護を提供するための基礎的な知識を習得する。 (オムニバス方式／全14回) (8 久世明香／7回) 動物の行動特性に合わせた院内環境整備の方法、対動物関係の技術(動物へのアプローチ方法、ボディランゲージの読み取り、ハンドリング・保定方法)、生活の援助(栄養状態や維持行動の評価と援助)、診療補助の種類について解説する。最終回に総合討論を実施する。 (9 小野沢栄里／2回) 動物看護師の役割、感染予防や事故防止のための院内環境整備の方法について解説する。 (9 小野沢栄里／2回) 投薬(内服薬、注射薬、外用薬、薬浴)に関わる技術について解説する。 (7 一戸登夢／3回) 身体検査の内容と方法、一般的な検査・処置に必要な技術(注射器の取扱い、採血、留置)について、解説する。	オムニバス方式
		動物内科看護学Ⅱ	(概要) 獣医診療で実施される各種検査や処置について、その補助が適切に行えるよう、目的や方法に関する知識を習得する。 (オムニバス方式／全14回) (9 小野沢栄里／3回) 輸液に関わる技術、輸血製剤の取扱いについて解説する。最終回に総合討論を実施する。 (42 久末正晴／1回) 輸血に関わる技術(適応とリスク、クロスマッチ試験、関わる手技、副反応)について解説する。 (24 山田一孝／6回) X線検査に関わる技術(目的・意義、放射線防護、実施方法及び撮影体位、造影検査及び透視検査、フィルムの現像及びデジタルX線撮影)、CT及びMRI検査の概要について解説する。 (56 茅沼秀樹／2回) 超音波検査に関わる技術(目的、実施方法及び保定体位、検査モード、読影)について解説する。 (55 五十嵐寛高／1回) 内視鏡検査に関わる技術(目的・意義、実施方法・準備事項、機器の洗浄・消毒法)について解説する。 (7 一戸登夢／1回) 一般的な検査・処置に必要な技術(採尿、カテーテル挿入、ドレナージ、酸素吸入)について解説する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(獣医学部獣医保健看護学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 共通 系 科目	臨床 動物 看護 学 科 目	動物内科看護学Ⅲ	(概要) 獣医診療で実施される各種検査や処置について、その補助が適切に行えるよう、目的や方法に関する知識を習得する。また、イヌネコ以外の動物について、それぞれの特徴や管理方法を知る。 (オムニバス方式／全14回) (6 今井彩子／1回) 心電図と血圧に関わる技術（目的・意義、実施方法）について解説する。 (7 一戸登夢／2回) 整形外科的検査に関わる技術（目的、検査項目及び実施方法）について解説する。最終回に総合討論を実施する。 (46 齋藤弥代子／2回) 神経学的検査に関わる技術（目的、検査項目及び実施方法、評価記録法）について解説する。 (64 高橋広樹／1回) 眼科検査に関わる技術（目的・意義、方法）について解説する。 (82 柴田久美子／3回) 皮膚と耳の検査に関わる技術（観察と記録法、検査項目及び実施方法）について解説する。 (27 恩田賢／1回) 家畜としての牛の特徴、管理方法について解説する。 (61 新井佐知子／1回) 家畜としての牛の特徴、管理方法について解説する。 (83 外平友佳理／2回) 野生動物・エキゾチックアニマル・展示動物の特徴、管理方法について解説する。 (84 椿直哉／1回) マイクロチップの挿入について解説する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（獣医学部獣医保健看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 共通 系 科目	臨床 動物 看護 学科 科目	動物外科看護学Ⅰ （概要）外科診療の補助を適切に行うため、手術に関わる解剖学・生理学について学び、術前準備に関する知識を習得する。 （オムニバス方式／全14回） （7 一戸登夢／6回） 手術に関わる骨格系と神経系の解剖学と生理学、骨格系の外傷と治癒過程や管理方法、褥瘡予防とドレナージによる管理方法について解説する。軟部組織・整形外科の手術に使用する手術器具・機器・消耗品、手術中に使用する輸液や抗生物質の種類と使用方法、また、手術衣及びタオル・ドレープ類の準備と滅菌法、手洗い、手術着・手袋の着用について解説する。 （6 今井彩子／2回） 手術に関わる軟部組織の解剖学と生理学、術前の手術室の準備（機器及び機械台の準備）について解説する。 （56 茅沼秀樹／1回） 外科疾患に関わる画像診断（X線検査、超音波検査、CT検査の実際）について解説する。 （25 高木哲／1回） 軟部組織の外傷と治癒過程や管理方法について解説する。 （57 金井詠一／1回） 低侵襲手術に使用する手術器具・機器・消耗品について解説する。 （63 伊藤哲郎／1回） 歯科処置に使用する手術器具・機器・消耗品（縫合材など）について解説する。 （64 高橋広樹／1回） 眼科手術に使用する手術器具・機器・消耗品（縫合材など）について解説する。 （43 青木卓磨／1回） 手術器具の準備と滅菌法について解説する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（獣医学部獣医保健看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 共通 系 科目	臨床 動物 看護 学 科目	動物外科看護学Ⅱ	オムニバス方式
	動物臨床検査学	（概要）外科診療の補助を適切に行うため、術中補助、術後管理、救急救命に関する知識を習得する。また、入退院時の手続きや説明について学ぶ。 （オムニバス方式／全14回） （6 今井彩子／7回） 麻酔（準備、リスク評価、前投与、麻酔の種類）、疼痛管理、術中補助（直接補助及び間接補助）、周術期のモニタリングと麻酔記録の作成方法、周術期の疼痛評価について解説する。 （55 五十嵐寛高／1回） 術前の栄養状態の評価や術後の栄養管理の方法について解説する。 （7 一戸登夢／3回） 術創管理と包帯法、動物理学療法及びリハビリテーションの目的・方法について解説する。 （28 藤井洋子／2回） 救急救命（エマージェンシーの原因と病態、BLS、ALS、気管挿管、心肺蘇生）と安楽死について解説する。 （9 小野沢栄里／1回） 術前手続きや術前検査、退院時の注意点や飼い主への説明事項について解説する。	オムニバス方式、 共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要			
（獣医学部獣医保健看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 共通 系科目	臨床 動物 看護 学科 科目	動物臨床看護学総論 （概要）愛玩動物看護師の役割を理解し、動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を習得する。 （オムニバス方式／全14回） （9 小野沢栄里／8回） チーム医療における動物看護師の役割、クリティカルパス、動物看護過程の展開（目的・意義・方法、ステップ、アセスメント、事例ごとの情報の整理や看護計画、実施と評価）、診療記録と看護記録、グリーフケア及びエンゼルケア、家庭での継続看護の特徴及び指導方法について解説する。 （8 久世明香／1回） ヒトの医療における看護師コア・コンピテンシーについて解説する。 （80 弓削田直子／5回） 入院動物の看護全般に関わる知識、若齢動物及び老齢動物の看護の特徴、ターミナルケアの目的・意義について解説する。	オムニバス方式
		動物医療コミュニケーション （概要）チーム医療の実現には、獣医師を含む院内スタッフと愛玩動物看護師の綿密なコミュニケーションが必要であり、個々の動物に合った獣医療及び看護の提供には、動物の飼い主や家族とのコミュニケーションが重要である。このようなコミュニケーションの基礎について学び、事前問診、入院動物の容態説明、適正飼養・健康管理に関する情報提供、受付業務、チーム医療に関するコミュニケーション技能について理解する。 （オムニバス方式／全14回） （42 久末正晴／2回） コミュニケーション論、獣医療面接のプロセスについて説明する。最終回に総合討論を実施する。 （86 井上舞／1回） ペット保険について説明する。 （85 友野悠／11回） クライアントエデュケーションとして、適正飼養及び健康管理のための方法とその情報の提供、在宅看護等におけるコミュニケーション技能、インフォームドコンセントについて説明する。また、チーム獣医療に関するコミュニケーション技能、院内業務（受付業務、物品購入と管理、リスクアセスメント）について説明する。	オムニバス方式

授業科目の概要				
(獣医学部獣医保健看護学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 共通 系 科目	臨床動物看護学科目	動物臨床看護学各論Ⅰ	(概要) 様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。感染症、循環器疾患、呼吸器疾患、口腔歯科疾患、生殖器疾患について、病態・検査・治療法・看護・予防法を学ぶ。 (オムニバス方式／全14回) (6 今井彩子／3回) 徴候や病態、疾患について概説し、評価と記録法について説明する。また代表的な徴候として、全身徴候、特異的徴候、特異的病態について説明する。最終回に総合討論を実施する。 (84 椿直哉／1回) ウイルス感染症病態・検査・治療法（内科療法）・看護・予防について説明する。 (42 久末正晴／1回) 呼吸器疾患の病態・検査・治療法（内科療法）・看護・予防について説明する。 (22 平健介／1回) 寄生虫感染症の病態・検査・治療法（内科療法）・看護・予防について説明する。 (43 青木卓磨／3回) 循環器疾患の病態・検査・治療法・看護・予防、呼吸器疾患の治療法（外科療法）及び術後管理について説明する。 (87 高橋香／3回) 口腔歯科疾患の病態、検査、治療法、看護、予防について説明する。 (57 金井詠一／2回) 生殖器疾患の病態、検査、治療法、看護、予防について説明する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(獣医学部獣医保健看護学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 共通 系 科目	臨床 動物 看護 学 科 目	動物臨床看護学各論Ⅱ	(概要) 消化器疾患、腎泌尿器疾患、内分泌疾患、血液・アレルギー・免疫介在性疾患、眼科疾患について、病態・検査・治療法・看護・予防法を学ぶ。	オムニバス方式
			(オムニバス方式／全14回) (55 五十嵐寛高／3回) 消化器疾患（食道・胃・腸・肝臓・胆嚢・膵臓）の病態、検査、治療法（内科療法）、看護、予防について説明する。 (25 高木哲／2回) 消化器疾患（食道・胃・腸・肝臓・胆嚢・膵臓）の治療法（外科療法）及び術後管理について説明する。 (42 久末正晴／2回) 血液・アレルギー・免疫介在性疾患の病態、検査、治療法（内科療法）、看護、予防について説明する。最終回に総合討論を実施する。 (42 久末正晴／2回) 腎泌尿器疾患の病態、検査、治療法（内科療法）、看護、予防について説明する。 (57 金井詠一／1回) 腎泌尿器疾患の治療法（外科療法）及び術後管理について説明する。 (63 伊藤哲郎／2回) 内分泌疾患の病態、検査、治療法（内科療法）、看護、予防について説明する。 (64 高橋広樹／2回) 眼科疾患の病態、検査、治療法、看護、予防について説明する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（獣医学部獣医保健看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 共通 系 科目	臨床 動物 看護 学 科目	動物臨床看護学各論Ⅲ （概要）整形外科疾患、神経疾患、皮膚疾患、腫瘍疾患、救急疾患について、病態・検査・治療法・看護・予防法を学ぶ。また、放射線治療の概要を理解するとともに、問題行動の概要及び看護・予防について学ぶ。 （オムニバス方式／全14回） （46 齋藤弥代子／3回） 神経疾患の病態、検査、治療法、看護、予防について説明する。 （82 柴田久美子／2回） 皮膚や耳の疾患の病態、検査、治療法（内科療法）、看護、予防について説明する。 （57 金井詠一／1回） 皮膚や耳の疾患の治療法（外科療法）及び術後管理について説明する。 （9 小野沢栄里／1回） 腫瘍疾患の病態、検査、治療法、看護、予防について説明する。 （48 圓尾拓也／1回） 放射線治療について説明する。 （6 今井彩子／1回） 救急疾患の病態、検査、治療法、看護、予防について説明する。 （8 久世明香／2回） 問題行動発現の仕組み、診療方法、治療法、看護、予防について説明する。 （7 一戸登夢／3回） 整形外科疾患の病態、検査、治療法、看護、予防について説明する。総合討論を実施する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（獣医学部獣医保健看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 共通 系科目	臨床 動物 看護 学科 目	動物臨床看護学各論Ⅳ （概要）適切な獣医療及び看護を提供するために行うべき、院内環境の工夫や行動学的アプローチについて理解する。イヌネコ以外の伴侶動物及び展示動物における各種疾患の概要と看護、野生動物の扱いについて学ぶ。 （オムニバス方式／全14回） （8 久世明香／2回） 診療ストレス軽減のために行うべき行動学的ケアについて説明する。 （88 村田香織／1回） 動物病院におけるパピークラス・キトンクラスについて説明する。 （91 服部幸／1回） キャットフレンドリークリニック及びネコに対する看護の特徴について説明する。 （90 三輪恭嗣／5回） 伴侶動物としてのフェレット、ウサギ、鳥、げっ歯類、爬虫類・両生類における各種疾患の概要と看護について説明する。 （24 山田一孝／1回） 伴侶動物あるいは展示動物としてのウマやポニーにおける各種疾患の概要と看護について説明する。 （83 外平友佳理／1回） 動物園で飼育される動物における各種疾患の概要と看護について説明する。 （89 大塚美加／1回） 水族館で飼育される動物における各種疾患の概要と看護について説明する。 （21 塚田英晴／1回） 野生動物の取り扱いと野生動物との共生について説明する。 （84 椿直哉／1回） 保護施設における獣医療と看護について説明する。	オムニバス方式
専門 共通 系科目	愛護・ 適正 飼養 学科 目	愛玩動物学Ⅰ （概要）愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。 （オムニバス方式／全14回） （12 茂木一孝／10回） 犬の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れ、適切な飼養管理方法（飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢、社会化訓練など）について概説する。犬の血統と血統書について概説する。盲導犬など、聴導犬と介助犬以外の補助犬の種類と役割、育成及び適正について概説する。 （70 水越みゆき／2回） 聴導犬の役割と育成、適性について概説する。 （69 高柳友子／2回） 介助犬の役割と育成、適性について概説する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（獣医学部獣医保健看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 共通 系科目	愛玩動物学Ⅱ	（概要）愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。 （オムニバス方式／全14回） （12 茂木一孝／6回） エキゾチック動物（ウサギ、フェレット、ハムスター、モルモット）の適切な飼養管理方法（飼養上の特徴、飼養環境、体調管理など）を概説する。動物の基本的な取扱い（動物を安全に散歩・運動・ふれあいさせることの意義など）、基本的グルーミング（シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など）の目的及び方法、また適切な飼養環境やストレスの緩和方法について概説する。 （8 久世明香／4回） 猫の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れ、適切な飼養管理方法（飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢など）について概説する。 （31 戸張靖子／2回） 愛玩鳥の適切な飼養管理方法（飼養環境、体調管理など）について概説する。 （52 松井久実／2回） エキゾチック動物（カメ、爬虫類）の適切な飼養管理方法（飼養上の特徴、飼養環境、体調管理など）について概説する。	オムニバス方式
	人と動物の関係学	（概要）動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。 （オムニバス方式 全14回） （14 菊水健史／6回） 動物の飼養・利用の歴史や現代の動物虐待、介在動物としての役割やその効果、動物病院や愛玩動物看護師の関わり方とこれからの共生社会について学ぶ。 （32 永澤美保／5回） 欧米と日本の動物観、動物との関わり方の相違や、動物との接触が人間に与える身体的・心理的影響について学ぶ。 （8 久世明香／2回） 動物の飼養と利用の現状、学校飼育動物の目的や実態、愛玩動物看護師の関わりについて学ぶ。 （1 植竹勝治／1回） 多頭飼育崩壊（アニマル・ホーディング）について学ぶ。	オムニバス方式
	適正飼養指導論Ⅰ	愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。具体的には、愛玩動物の飼養適正飼養とその現状を動物の側からの理解にとどまらず、それによる人間が受ける影響と問題点について学ぶ。また、愛玩動物の飼養のニーズや目的、グリーフケア、ペットロスについて、その概要と飼い主の心情と必要な支援について理解を深め、最後に愛玩動物の適正飼養の推進の目的と活動、動物取扱業者における適正飼養や愛玩動物の過剰繁殖の問題とその対策、それらの飼養に影響を与える問題行動予防について理解する。	

授業科目の概要				
(獣医学部獣医保健看護学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門共通系科目	愛護・適正飼養学科目	適正飼養指導論Ⅱ	愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。次に、災害危機管理と支援として、災害時の同行避難の重要性や愛玩動物とその飼い主の災害の備え、最後に災害獣医療の概要と災害時における愛玩動物看護師の役割について理解を深める。また、動物愛護管理行政が扱う飼い主指導の基盤として、公衆衛生業務における愛玩動物看護師の役割と動物愛護週間の役割と実施状況、犬・猫の引取り及び負傷動物などの収容並びに処分の状況、それらにおける対策や行政の役割について理解する。	
		動物生活環境学	動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼養環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護収容施設、ペットの教育・訓練施設及び動物介在教育施設の整備・管理の方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学び、人とペットとの共生のための生活環境の在り方を理解する。	
		ペット関連産業概論	ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼養ニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。 ペット関連産業における職業倫理・行動倫理については、責任と社会的役割、商取引における関連法規の概要、動物の愛護及び管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法を理解する。ペットの飼養実態と市場規模については、飼養実態及びペット関連産業の概要・市場規模について理解する。各ペット関連産業の現状と課題については、ペットフード、ペット用品、ペット関連サービスの現状と課題を理解する。動物取扱業については、動物取扱業制度の概要、動物取扱責任者として業務実施するために必要な実践的知識と動物の取扱方法や衛生管理に係る手法について理解する。	
	実験・実習科目	動物形態機能学・臨床検査学実習Ⅰ	(概要) 動物形態機能学実習については、動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。 (オムニバス方式／全14回) (4 島津徳人／4回) 顕微鏡の取扱い(名称・鏡検条件・操作法・管理法)、組織像観察(主要臓器の組織構造と機能の関連)について概説する。 (30 市原伸恒／3回) 骨格標本を用いて、骨(名称・特徴)、関節(名称・構造・機能)、骨格筋(名称・構造・機能)について概説する。 (51 大石元治／3回) 内臓模型などを用いて、内臓器官の配置や生殖器の雌雄差について概説する。 臨床検査学実習については、獣医学領域で実施されている主な臨床検査項目の意義、検査方法及び測定原理並びに検査結果の解釈について実習を通じ理解し、愛玩動物看護師として測定機器や分析装置を適切に扱い臨床検査が実施できる技術を修得する。具体的には、検査時における感染予防、検体採取法及び各種検体の取り扱いについて理解した上で、細菌学的検査、血球検査、血液生化学検査、尿検査、寄生虫検査、免疫学的検査等を行う。さらに、測定機器や分析装置の精度管理、所見の記録法についても修得する。 (5 大仲賢二／4回) 標準予防策、滅菌・消毒、廃棄物の取扱、細菌学検査について学ぶ。	オムニバス方式

授業科目の概要				
(獣医学部獣医保健看護学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 共通 系 科目	実験・実習科目	動物形態機能学・臨床検査学実習Ⅱ	(概要) 獣医学領域で実施されている主な臨床検査項目の意義、検査方法及び測定原理並びに検査結果の解釈について実習を通じて理解し、愛玩動物看護師として測定機器や分析装置を適切に扱い臨床検査が実施できる技術を修得する。具体的には、検査時における感染予防、検体採取法及び各種検体の取り扱いについて理解した上で、細菌学的検査、血球検査、血液生化学検査、尿検査、寄生虫検査、免疫学的検査等を行う。さらに、測定機器や分析装置の精度管理、所見の記録法についても修得する。 (オムニバス方式／全14回) (2 栗林尚志／4回) 免疫学的検査について学ぶ。 (22 平健介／4回) 寄生虫学的検査について学ぶ。 (42 久末正晴・54 根尾櫻子／5回) (共同) 一般血液検査、生化学的検査について学ぶ。 (2 栗林尚志・5 大仲賢二／1回) (共同) 遺伝学的検査について学ぶ。	オムニバス方式、 共同 (一部)
		動物愛護・適正飼養学実習	動物の基本的な取扱いなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を養う。具体的には、動物種に応じた安全なハンドリングと動物の安全な散歩・運動、犬の散歩や運動、ふれあいのための適切な道具の選択方法に加え、基本的なグルーミング（シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など）と動物の飼養環境の適切な整備について学ぶ。次に、飼い主とのコミュニケーションの在り方について、犬や猫の品種に応じた特徴とそれに基づく動物の適切な飼養方法、飼い主が法令に基づき遵守すべき対応、さらには動物の飼養が困難となっている飼い主への支援について理解する。最後に動物愛護管理行政が関与する動物愛護管理センターの活動や動物取扱業へ指導すべき内容について理解し、実践する能力を養う。	
		臨床看護学実習Ⅰ	(概要) 獣医療全般に関わる基本的な手技について、動物内科看護学ⅠⅡⅢ及び動物繁殖学で学んだ知識の実践力を習得する。 (オムニバス方式／全14回) (8 久世明香／7回) イヌ及びネコの扱い方（動物へのアプローチ方法、診察環境の工夫、ハンドリング・保定方法）、生活の援助（栄養状態や維持行動の評価と援助）について学ぶ。また、最終回に総合学習を行う。 (9 小野沢栄里／2回) 動物看護の基礎知識について復習し、感染予防や事故防止のための院内環境整備の方法について学ぶ。 (27 恩田賢・62 風間啓／1回) (共同) 家畜としての牛の管理方法について学ぶ。 (44 野口倫子・26 吉岡耕治／1回) (共同) イヌの繁殖機能検査について学ぶ。 (24 山田一孝／1回) ウマの一般的な身体検査や保定法について学ぶ。 (7 一戸登夢／2回) イヌ及びネコの身体検査の内容と方法について学ぶ。	オムニバス方式、 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要				
(獣医学部獣医保健看護学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 共通 系 科目	実験・ 実習 科目	臨床看護学実習Ⅱ	(概要) 獣医療全般に関わる基本的な手技について、動物内科看護学ⅠⅡⅢで学んだ知識の実践力を習得する。 (オムニバス方式／全14回) (82 柴田久美子／1回) 皮膚検査及び外耳道検査の補助について学ぶ。 (8 久世明香／3回) 留置設置の補助について学ぶ。学習した手技について、手順をまとめ、プレゼンテーションを行うことで理解を深める。 (7 一戸登夢／3回) 神経学的検査、整形外科的検査の補助、注射器の取扱い及び採血の手技について学ぶ。 (9 小野沢栄里／2回) 輸液の準備、輸液中の動物の管理について学ぶ。また、最終回に総合学習を行う。 (9 小野沢栄里／4回) 薬剤の取り扱い及び投与方法について学ぶ。 (54 根尾櫻子／1回) 輸血の準備、輸血中の動物の管理について学ぶ。	オムニバス方式、 共同 (一部)
		臨床看護学実習Ⅲ	(概要) 獣医療全般に関わる基本的な手技について、動物内科看護学ⅠⅡⅢ、動物栄養学及び動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を習得する。 (オムニバス方式／全14回) (24 山田一孝／2回) X線検査のための保定と放射線防護のための装備について学ぶ。 (56 茅沼秀樹／2回) 超音波検査のための保定について学ぶ。 (6 今井彩子／3回) 心電図検査及び血圧測定の方法と記録法について学ぶ。最終回に総合学習を行う。 (64 高橋広樹／2回) 眼科検査の補助及び眼科疾患を有する動物の看護について学ぶ。 (7 一戸登夢／1回) 採尿及び採便の手技について学ぶ。 (41 鈴木武人／1回) 各種ペットフードの特徴について学ぶ。 (9 小野沢栄里／1回) 栄養チューブ設置の準備や流動食の調整について学ぶ。 (84 椿直哉／1回) マイクロチップ装着の手技及び読み取り方法について学ぶ。 (8 久世明香／1回) 学習した手技について、手順をまとめ、プレゼンテーションを行うことで理解を深める。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（獣医学部獣医保健看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 共 通 系 科 目	実験・実習科目	臨床看護学実習Ⅳ	
		（概要）手術準備、麻酔準備や麻酔監視、疼痛管理など、動物外科看護学ⅠⅡで学んだ知識の実践力を修得する。 （オムニバス方式／全14回） （6 今井彩子／6回） 疼痛評価及び疼痛管理の方法、局所麻酔の方法、術前準備（麻酔器及びモニター機器の使用法・点検）について学ぶ。また、学習した手技について、手順をまとめ、プレゼンテーションを行うことで理解を深め、最終回には総合学習を行う。 （43 青木卓磨／2回） 術前準備（器具の準備及び滅菌）について学ぶ。 （57 金井詠一／2回） 術前準備（手術衣、タオル、ドレープ類の準備及び滅菌）について学ぶ。 （7 一戸登夢・27 恩田賢・62 風間啓／2回）（共同） 術前準備（手洗い、手術衣や手袋の装着）について学ぶ。 （7 一戸登夢／2回） 術前準備（動物の固定、術野の消毒、ドレーピング、器械台の準備）について学ぶ。	オムニバス方式、共同（一部）
		臨床看護学実習Ⅴ	
		（概要）手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。 （オムニバス方式／全14回） （6 今井彩子／4回） 術前準備（周術期に使用する薬剤の種類と準備、気管挿管の準備と補助）、麻酔記録の作成について学ぶ。 （7 一戸登夢／4回） 外科器具の種類と使用法について学ぶ。また、学習した手技について、手順をまとめ、プレゼンテーションを行うことで理解を深め、最終回には総合学習を行う。 （7 一戸登夢・47 藤田幸弘／2回）（共同） 術後の包帯法と抜糸について学ぶ。 （63 伊藤哲郎／2回） 歯科器具の種類と使用法、歯科処置の補助について学ぶ。 （28 藤井洋子／2回） 救急救命における心肺蘇生術の手順について学ぶ。	オムニバス方式、共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要				
(獣医学部獣医保健看護学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 共通 系 科目	実験・ 実習 科目	臨床看護学実習Ⅵ	(概要) 臨床看護学実習Ⅰ～Ⅴをもとに、臨床的な場面を想定し、動物看護過程、疾患別の看護や処置の補助など、動物臨床看護学で学んだ知識や動物医療コミュニケーションで学んだ知識の実践力を習得する。 (オムニバス方式／全14回) (9 小野沢栄里／4回) 動物や衛生面に配慮した病院環境や入院環境について学ぶ。また、動物看護過程の実践として、動物看護アプローチの個性、生活環境や症状・入院・治療が動物に及ぼす影響について理解し、事例を用いた動物看護計画及び動物看護記録の作成を行う。 (8 久世明香／3回) 一般的な入院動物の管理・評価・ケアに学ぶとともに、術後管理としてのカラー装着の影響や問題行動を示す動物の扱いのポイントについて理解する。また、若齢動物の看護、動物を飼い始めた飼い主への説明、老齢動物やターミナルケアを必要とする動物の看護について学ぶ。 (7 一戸登夢／2回) 褥瘡管理について学ぶ。 (6 今井彩子／3回) 周術期の看護、術中補助について学ぶ。また、ターミナルケア及び安楽死の方法、死亡後の動物の扱いについて学ぶ。 (42 久末正晴／2回) 獣医療面接のプロセスと方法について学ぶ。	オムニバス方式
		動物看護総合実習	(概要) 臨床看護学実習を発展させ、専門的な内容やロールプレイングによる実践的な内容について学ぶ。また、動物医療コミュニケーションで学んだ知識の実践力を習得する。さらに、実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。一次診療施設と二次診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。 (オムニバス方式／全28回) (6 今井彩子／1回) 救急救命における実践的な準備や補助について学ぶ。 (54 根尾櫻子／1回) 血液塗抹観察について学ぶ。 (24 山田一孝／1回) X線読影について学ぶ。 (9 小野沢栄里／4回) 実際の症例を対象に、動物看護過程の実践（動物看護アプローチの個性の理解、看護計画及び看護記録の作成）を行い、入退院や検査・手術に関わる飼い主向け説明文書や適正飼養に関する飼い主向け指導文書を作成する。	オムニバス方式、 共同（一部） 1回当たり6時間として、全28回実施する。

授 業 科 目 の 概 要			
（獣医学部獣医保健看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 共通 系 科目	実験・実習科目	（85 友野悠／1回） 受付業務及び電話対応について学ぶ。 （8 久世明香／2回） 薬物の管理及び調剤について学ぶ。また、本科目で習得した内容を文章化し、他者に伝える能力を養う。 （7 一戸登夢／3回） 動物看護業務について再認識し、動物診療施設ごとの特徴を理解した上で、実習時の注意点について理解する。 （6 今井彩子・7 一戸登夢・8 久世明香・9 小野沢栄里／8回）（共同） 麻布大学附属動物病院の診療業務に参加し、受付、診察、手術、入院管理、臨床検査、CT/MRI、放射線照射における愛玩動物看護師の役割やチーム獣医療を体験する。 （6 今井彩子・7 一戸登夢・8 久世明香・9 小野沢栄里・1 植竹勝治・2 栗林尚志・3 大倉健宏・5 大仲賢二・4 島津徳人／7回）（共同） 学外の提携動物病院の診療業務に参加し、動物看護師の役割やチーム獣医療を体験する。また、本科目で習得した内容を整理し、プレゼンテーションを行うことで理解を深める。	
	探求・研究科目	専門ゼミⅠ 我々の環境をとりまく科学的事象について、学生自らが研究テーマを設定し、調査研究を行う。授業外時間を最大限に活用し、各自のテーマに従って研究を進める。 得られた結果をまとめ、後期後半（11-12月）に開催される発表会で研究成果を発表するとともに、レポートを作成する。自らが調査研究を行い、その結果を取りまとめるという一連の研究活動を通じて、環境問題に関する「問題発見能力」「問題解決能力」「情報発信能力」の滋養を目指す。	共同
		専門ゼミⅡ 我々の環境をとりまく科学的事象について、学生自らが研究テーマを設定し、調査研究を行う。 授業外時間を最大限に活用し、課題研究Ⅰの研究方法及び研究成果をさらに発展させたテーマについて研究を進める。得られた結果をまとめ、後期後半（11-12月）に開催される発表会で研究成果を発表するとともに、レポートを作成する。自らが調査研究を行い、結果を取りまとめるという一連の研究活動を通じて、環境問題に関してより高度な「問題発見能力」「問題解決能力」「情報発信能力」の滋養を目指す。	共同
		卒業論文 論文の研究と作成は、獣医学部、動物病院、生物科学総合研究所のいずれかの研究室等に所属して行う。 各自が指導教員の指導のもとに研究テーマを決め、実験・調査研究を行い、科学論文として作成するものである。卒業論文は必ず期日までに提出し、上記学部等の全教員が閲覧した後に、研究室担当または指導教員により単位認定が行われる。提出締め切り後、速やかにポスター形式による発表会を実施する。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（獣医学部獣医保健看護学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 共通 系 科目	疫学概論	（概要）疫学は、人間集団の中で出現する様々な健康関連の事象の頻度と分布を観察し、それらに影響を与える要因を明らかにすることによって、健康関連の問題に対する有効な対策方法の樹立に役立てるための科学である。感染症予防から発展してきた疫学は、現代では、医学のみならず様々な分野で応用され、政策における意思決定などにも活用されている。この講義では、疫学における研究デザインを通してその基礎を学び、疫学分野の最新学術論文を読んで、その応用方法と批判的思考を習得する。 （オムニバス方式／全14回） （15 石原淳子／7回） 疫学の歴史的事例や現代での活用事例から、公衆衛生学・公衆栄養学分野における疫学の位置づけを概説し、疫学指標とともに、疫学研究に特徴的な研究デザイン（生態学的研究、横断研究、症例対照研究、コホート研究）について解説する。 （65 小手森綾香／7回） 疫学における研究デザイン（介入研究、システマティックレビュー、メタアナリシス）を解説するとともに、疫学研究に伴う誤差の種類やバイアスと交絡、因果関係の考え方について概説する。また、疫学で用いられる統計学的手法と、研究倫理、情報収集・情報処理方法などについて解説する。	オムニバス方式
	衛生行政学	食品の原材料となる農水畜産物の生産から製造加工を経て販売、そして消費に至る一連の「食品供給工程：フードチェーン」において、あらゆる要素が食品の安全性に影響を及ぼすおそれがある。授業では、フードチェーンに関連する法規制として食品安全基本法、食品衛生法、製造物責任法（PL法）、消費者基本法、食品表示法、食品表示基準、食品のロス削減に関する法律及び健康増進法など食品関連の法律を中心に、特に行政との係りについて最新情報を取り入れてスライドや配布資料などで学ぶ。	
	総合動物看護学	獣医保健看護学の専門科目の復習を行い、愛玩動物看護師として必要とされる基本的事項を確実に身に付けるとともに、実社会のさまざまな分野で活躍できる愛玩動物看護師としての豊かで幅広い知識を習得する。基礎動物学科目、基礎動物看護学科目、臨床動物看護学科目及び愛護・適正飼養学科目について、習熟度を高めるため学び直す。	共同

学校法人麻布獣医学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和 5 年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
麻布大学			
獣医学部			
獣医学科（6 年制）	120	—	720
動物応用科学科	130	—	520
生命・環境科学部			
臨床検査技術学科	80	—	320
食品生命科学科	80	—	320
環境科学科	80	—	320
計	490	—	2200
麻布大学大学院			
獣医学研究科			
獣医学専攻(4 年制 D)	10	—	40
動物応用科学専攻(M)	20	—	40
動物応用科学専攻(D)	4	—	12
環境保健学研究科			
環境保健科学専攻(M)	7	—	14
環境保健科学専攻(D)	2	—	6
計	43	—	112

令和 6 年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
麻布大学				
獣医学部				
獣医学科（6 年制）	120	—	720	
動物応用科学科	<u>120</u>	—	<u>480</u>	定員変更（△10）
獣医保健看護学科	<u>70</u>	—	<u>280</u>	学科の設置（届出）
生命・環境科学部				
臨床検査技術学科	80	—	320	
食品生命科学科	<u>40</u>	—	<u>160</u>	定員変更（△40）
環境科学科	<u>60</u>	—	<u>240</u>	定員変更（△20）
計	490	—	2220	
麻布大学大学院				
獣医学研究科				
獣医学専攻(4 年制 D)	10	—	40	
動物応用科学専攻(M)	20	—	40	
動物応用科学専攻(D)	4	—	12	
環境保健学研究科				
環境保健科学専攻(M)	7	—	14	
環境保健科学専攻(D)	2	—	6	
計	43	—	112	